

半数だけ 人だけ読め 正しく

広島市の繁華街で208人調査

「えづ?」、「ごうづ?」、いいえ「ごうつ」ですー。江津市の若手職員らが1月、広島市の繁華街で実施したアンケートで、江津を「ごうつ」と正しく読めた人が半数しかいなかった。職員らは結果にショックを受けながらも、知名度アップに向けた戦略を練ることにしている。

市若手職員P.T

知名度向上へ戦略

アンケートを実施したのは、20〜30歳代の208人に聞いた。

職員8人でつくる「定住対策プロジェクトチーム」。江津市の知名度の現状を知ろうと1月19、20の両日、広島「えづ」3人など、残り97

人は正確に読めなかった。

「江津」を正しく読めたのは53%（111人）。「えづ」25人、

「ごう」6人、「ごうづ」3人など、残り97人は正確に読めなかった。正しく読めた人のうち、江津市へ「行ったことがある」のは37%で、地図上で同市の正しい場所を指し示せたのは32%だった。

これに対し、同市に隣接する浜田市について78%が「知っている」と回答。うち71%が「行ったことがある」とし、知名度の差が際立った。

アンケート結果を基に江津市では、市報3月号で「どうしたら江津のことを知ってもらえるだろう?」と題した特集記事を掲載。同市で街づくりを携わるNPO法人事務局長やデザイナーらから意見を聞き「分かりやすい

観光スポットがない」「江津から出す情報が(都会地と)かみ合っていない」など、原因を分析してもらった。

プロジェクトチームリーダーの植田紘司さん(34)「社会教育課主任」は「結果はショックだったが、課題を実感できた」とし、「他市町の知名度向上の取り組みを調査し、江津を知ってもらうために何が考えたい」と話している。



「どうしたら江津のことを知ってもらえるだろう?」と題した特集記事を掲載した江津市報3月号

江津(ごうつ)